

黒崎南ふれあい協議会ニュース

第13号

ふれあいかわら版

アートが呼び起こす、
「水」の記憶、「土」の匂い

去る10月30日(金)、黒崎南ふれあい協議会役員および各部会の委員ら約40人が、「水と土の芸術祭」のバスツアーを計画し、さまざまな芸術作品を堪能してきました。芸術祭は12月27日まで各地に数多く開催されております。

当日は、北場公民館をバスで出発。途中で農協旧黒鳥支店、農協黒崎支店、板井公民館にツアー参加者を乗せて、一路新津美術館を目指して走ります。

美術館に到着すると「水と土の芸術祭パスポート」に押印、芸術員から説明を受けて、水と土のアートを鑑賞しました。



最初は、いきなり光を遮断した闇の空間でのアートには度肝を抜かれました。海底の暗黒の世界をさまようような不思議な体験しました。子どもたちが新潟をテーマにした作品(笹団子が多かったとか)を、糸で幾重にも等間隔で吊して、闇の空間に全体の作品が、淡い青白い光を放つ不思議な芸術でした。タイトル名は「水たまり」です。

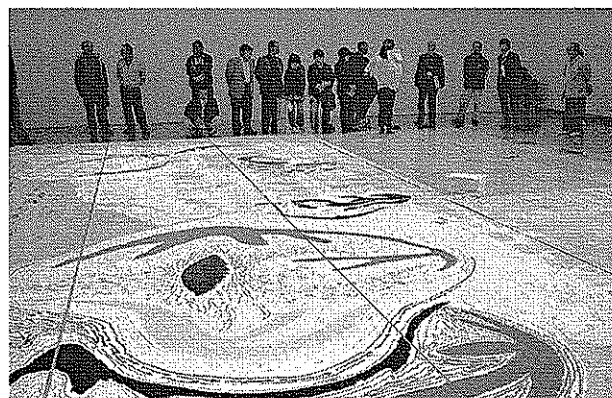
「水の記憶」では、土壁でつられた細長い

回廊の先のガラス窓の十字の空間に、かつて農作業に使われた田舟を浮かべ、逆回転する時計を設えて、水害や水との戦いの歴史を表現しておりました。

「水のラビリンス」は、美術館の広い展示室に巨大な新潟市の古い地図(懐かしい黒崎村、そして潟が点在していました)を描いて、地形の変化や川の蛇行の様子や生き物たちのはぐくみに必要な水の恵などを表現しておりました。

以上3点ご紹介しましたが、このようなことも芸術なのかとほとんど関心した次第です。

次は、「新潟絵地図niigata map」という作品です。展示室の床面に10×8mの大きさの紙を敷き詰め、新潟の風土や地形をイメージして画かれたアノマリー(変調)版の新潟マップです。



そして、最後は玄関前に展示している銀閣寺の白砂の向月台に似た白垂の家(彫刻)。丸い無数の天窓から差し込む日差しが、室内の白い砂壁に光の戯れをもたらします。中には椅子も用意されて幻想的な語らいの場を意図した作品です。



新津美術館を後にして、今度は江南区の旧亀田浄水場に出向きます。味わい深い古いコンクリート製の巨大な水槽。水を逆流させて

10m上から水が溢れ出る滝のような情景を醸し出します。作品名は「Trieb-氾濫」とのことでした。

次に、施設床面の作品「つぎつぎきんつぎ」は、家庭で不要となった大量の茶碗や湯飲み、皿などを接着剤で繋ぎ合わせた絵地図のような造形物。作者からは、自由に想像して欲しいとのことでした。筆者は、水との闘いであった亀田郷を連想しました。



みどりと森の運動公園 現場見学会を開催!!

去る10月31日(土)の午前中に、1次の盛土工事が完了したとして、現場見学会が催されました。当日は多く子ども達や父兄の方々と賑わい、広大な一変した現場を見て驚きの声をあげておりました。

運搬による盛土工事は、8月中旬から開始し10トンダンプで25,000台、125,000立米の膨大な量からも想像できるように、様変わりした現場を見て参加者は「これはすごい」を連発しておりました。

370メートル四方の広大な運動公園が身近なところに位置するだけに、参加者の期待はいっきに膨らんでおりました。素晴らしい運動公園の完成が待たれます。

また、福田・赤川JVの関所長からは「ダンプ運搬時はいろいろとご迷惑をかけました。残りの工事は、場内での土砂運搬による盛土工事が主となる。粉塵防止等細心の注意を払

って施工するので、引き続きご協力いただきたい。」旨の挨拶がありました。



10時頃の記念写真